

東大和南 高等学校 令和6年度（2学年用）教科 家庭 科目 家庭基礎

教 科： 家庭 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： 1組～7組： 上小牧千絵

使用教科書： （教科書「家基705家庭基礎 気づく力 築く未来」（実教出版））

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】・さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 これからの人生について考えてみよう ・ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ・自分の特徴や長所に気づき、人生を展望できるようにする。 ・人生設計に必要な要素を理解する。 ・自分の将来とこれからの社会について考えることができるようにする。	・自分の未来予想図を描こう	【知識・技能】 ・レポートを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができる。 【思考・判断・表現】 ・各ライフステージの特徴と課題について知り、男女共同参画社会などの社会状況を踏まえ、自分の生活や将来について考えを深め、発表を通じて考えを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組もうとしている。	○	○	○	1
	第2章 自分らしい生き方と家族 ・自立の種類とそれぞれの具体的な内容を把握する。 ・男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解し、どのような青年期を生きるかを考えることができるようにする。 ・労働の種類、またその意義について多面的に検討できるようにする。	・自立と共生 ・ライフキャリア	【知識・技能】 ・青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・労働の意義や役割、労働時間と生活時間とのかかわりについて関心を持ち、現在の家族・家庭が抱える課題を見いだそうとする。	○		○	1
	第6章 食生活をつくる ・和食の特徴を理解する。 ・自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 ・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。 ・表示の読み方を理解し、情報を正確に把握する。 ・食中毒に対する予防法や食品添加物について理解する。 ・家族の食生活の計画と管理ができるようになる。 ・衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。 ・年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の概量を理解する。	・日本の食文化の形成 ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理	【知識・技能】 ・日本の食文化や食事の意義や役割、食生活を取りまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。 ・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識を生かしながら、献立を作成することができる。 ・調理実習では日常の食事づくりに必要な調理技術を身につけ、準備から片付けまでの一連の流れを計画し実践できる。 【思考・判断・表現】 ・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりに向けての判断ができる。 ・自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し、課題解決のために思考し、解決に向けての判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点を持って、知識を深めようとしている。 ・調理実習においては、積極的に参加し、取り組もうとしている。	○	○	○	18
	第9章 消費行動を考える ・契約、多様な販売方法や支払い方法、問題商法について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する。 ・消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。	・消費行動と意思決定 ・消費生活の現状と課題 ・消費者の権利と責任	【知識・技能】 ・消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考えることができる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	第7章 衣生活をつくる ・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択ができるようにする。 ・衣服表示の種類を理解し、購入から洗濯などの管理に役立てる。 ・洗剤、漂白剤、防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができるようにする。 ・衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。	・衣服の素材の種類と特徴 ・衣服の選択から管理まで ・衣服の構造・デザイン	【知識・技能】 ・衣服素材や材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。 ・基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。 【思考・判断・表現】 ・衣服の用途によって、適切な衣服素材を考え、判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・基礎縫いの確認のための実習や、衣服調査などにおいて、積極的に取り組もうとする。	○	○	○	12
	第8章 住生活をつくる ・住まいはどのような機能を持ち、人の生活がその機能とどうかかわっているか理解する。 ・ライフステージや住もう人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。 ・住まいの生活空間の機能を理解し、空間の特徴や家族のイメージをすることができるようにする。 ・安全で長く住み続けるために必要な適切な管理の方法を理解する。	・人間と住まい ・住まいを計画する ・健康に配慮した快適な室内環境	【知識・技能】 ・住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。 ・住まいの清掃やメンテナンスについて理解し、快適な生活につなげることができる。 【思考・判断・表現】 ・現代のライフスタイルやライフステージに応じた住まいについて考えることができる。 ・住まいの管理方法について、適切な掃除や頻度を考え、判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくりに向けて意欲的に取り組もうとする。	○	○	○	7
	第10章 経済的に自立する ・家庭経済と国民経済、国際経済の関係性に気づく。 ・家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。 ・長期の経済設計の必要性について理解する。	・暮らしと経済 ・将来のライフプランニング	【知識・技能】 ・家庭経済のしくみについて理解でき、短期・長期的経済計画の重要性を認識できる。 【思考・判断・表現】 ・家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断ができる。 ・将来のライフイベントとその費用を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の経済的自立を考えながら、家庭経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	第2章 自分らしい生き方と家族 ・結婚、家族・家庭の意義や機能について理解する。 ・家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。 ・法律は自分たち一人ひとりの認識にもとづく社会の要請を受けて検討、改正されていくことを理解する。	・共に生きる家族 ・家族に関する法律	【知識・技能】 ・結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について理解できる。 ・家族に関する法律についての知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・家族の変遷や家族に関する意識の変化、さらには、現在の家族の抱える問題・課題などについて、新聞や書籍などから情報を収集し、自らの考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・家族、家庭生活に関する法律について関心を持ち、家庭生活と法律との関係について、理解をしようとしている。	○		○	2
	定期考査			○	○	○	1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	第3章 子どもとかかわる ・育児を学ぶ意義について理解する。 ・子どもの誕生, 子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもは身近な大人とかかわりあいのなかで発達していくことを理解する。 ・子どもの食生活・衣生活, 遊びについて理解を深める ・子どもの権利と福祉について理解する	・子どもの発達 ・子どもの生活 ・子どものための社会福祉	【知識・技能】 ・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 ・子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもに関する実践活動に、積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心を持つようとしている。	○	○	○	9
	第4章 高齢者とかかわる ・高齢者、高齢社会への理解を世界の動向からも深める。 ・高齢者の心身の特徴や生活を客観的に理解する。 ・要介護の高齢者に対して必要な心がけを理解する。 ・日常生活を手助けできる介助の技術を身につける。 ・介護保険制度について理解する。	・高齢社会に生きる ・高齢者を知る ・高齢者の自立を支える ・高齢社会を支えるしくみ	【知識・技能】 ・高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴、高齢期を支える社会的な制度、高齢期について理解している。 ・しくみについて理解している。 ・認知症の高齢者と接するときに必要な心がけ及び介助技術や車椅子の扱い方を理解している。 【思考・判断・表現】 ・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。	○	○	○	4
	第5章 社会とかかわる ・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 ・将来に向けた課題に気づく。 ・支え、支えあう社会の大切さやボランティア活動を理解し、ボランティア活動に興味・関心を持つようになり、実際の活動につなげる。	・支えあって生きる ・共生社会を生きる	【知識・技能】 ・社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。 【思考・判断・表現】 ・社会福祉や生涯を通しての社会保障制度のしくみについて、現在の生活課題と関連させながら考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみや地域での支えあいのしくみについて意欲的に理解しようとしている。	○	○	○	2
	定期考査			○	○	○	1
	ホームプロジェクト		【知識・技能】 ・家族の生活時間や、食・衣・住に関すること、ボランティア活動など、自分で関心のあること、また生活から見えてくる課題に対する具体的な解決方法を考えることができる。 【思考・判断・表現】 ・自身の活動についてレポートにまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・家族の生活時間や、食・衣・住に関すること、ボランティア活動など、自分で関心のあること、また生活から見えてくる課題を探ることができる。	○	○	○	
通 年							合計
							70